

令和6年度

「学生による授業評価」の概要

令和7年4月

県立広島大学大学教育実践センター

【 前 期 】

- 授業科目の概要 地域創生学部専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 1,677
- 回答率 34.2%

【 総 評 】

一昨年度以降、授業は原則対面で実施されている。今年度前期のアンケートの回答数は受講登録者数 4,897 に対して 1,677 であり、回答率は 34.2%と低い。これは、昨年度前期の回答率 35.0%と同水準である。今年度も学生アンケートはオンラインでの回答方式であったため、指示した際に回答しなかった学生は、その後も回答せず、回答率が上昇しない一因になっていると考えられる。今後、アンケートの実施方法を検討し、十分な回答率をいかに確保するかが重要な課題であり、アンケート結果に各教員がコメントしていることの周知も必要であると考えられる。

以下、アンケートの設問毎の詳細について考察する。まず、学生の自己評価に関わる項目として、設問 1「わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。」は、肯定的回答（強くそう思う・そう思う）の割合が前年度 97.1%とほぼ同水準の 98.2%であり、各科目において学生が真面目に取り組んだと考えられた。設問 2「わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修時間」は、4 時間以上および 2 時間以上と回答した割合の合計は 57.2%（昨年度 52.8%）、授業時間外に全く学修をしていないと回答した割合は 3.8%であった（R5 年度：4.9%、R4 年度：3.4%、R3 年度：3.2%）。わずかであるが、昨年度よりも授業学修時間が多い学生が増加し、学修しない学生が減少している。設問 3「この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている」の肯定的回答（強くそう思う・そう思う）の割合が 94.4%であることから、授業時のみでなく、授業時間外にも積極的に課題に取り組めるよう支援をしていきたい。

次に、授業評価に関わる設問 3～10 については、設問 4「この授業では能動的学修機会がある。」の肯定的回答（強くそう思う・そう思う）の割合は 85.4%（昨年度 82.8%）であった。設問 8～10 の肯定的回答（強くそう思う・そう思う）の割合は、設問 8「この授業の内容に関してさらに学びたくなる。」で 93.3%（昨年度 88.5%）、設問 9「この授業での学習活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。」で 96.5%（昨年度 93.7%）、設問 10「総合的に判断して、この授業に満足している。」で 96.7%（昨年度 93.8%）であり、いずれも高水準であり、かつ、昨年度よりもわずかながら上昇していた。学部教員が、きめ細やかに学修指導を実施していることが、高い満足度に繋がっていると考えられた。

■学部・学科	地域創生学部	■受講登録者数	4,897
■科目名	地域創生学部専門科目	■回答者数	1,677
■担当者名		■回答率	34.2%

■設問別評価集計

アンケート設問内容		強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
		評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1	わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	888 53.0%	758 45.2%	25 1.5%	5 0.3%	3.51
Q2	わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	312 18.6%	647 38.6%	654 39.0%	64 3.8%	2.72
Q3	この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	878 52.4%	705 42.0%	80 4.8%	14 0.8%	3.46
Q4	この授業では能動的学修機会がある。	710 42.3%	722 43.1%	215 12.8%	30 1.8%	3.26
Q5	この授業の課題の内容・量は適切である。	687 41.0%	871 51.9%	104 6.2%	15 0.9%	3.33
Q6	この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	791 47.2%	826 49.3%	53 3.2%	7 0.4%	3.43
Q7	この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	815 48.6%	789 47.0%	63 3.8%	10 0.6%	3.44
Q8	この授業の内容に関してさらに学びたい。	694 41.4%	870 51.9%	95 5.7%	18 1.1%	3.34
Q9	この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	738 44.0%	881 52.5%	50 3.0%	8 0.5%	3.40
Q10	総合的に判断して、この授業に満足している。	773 46.1%	849 50.6%	42 2.5%	13 0.8%	3.42

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
2.89	3.38	3.50	3.67	3.94	0.42
1.89	2.45	2.69	3.00	3.65	0.59
2.73	3.30	3.50	3.69	3.94	0.45
2.55	3.00	3.35	3.75	3.92	0.47
2.62	3.20	3.40	3.58	3.94	0.47
2.71	3.25	3.46	3.65	3.94	0.45
2.75	3.30	3.49	3.67	3.94	0.46
2.60	3.21	3.41	3.63	3.95	0.48
2.73	3.27	3.44	3.64	3.95	0.45
2.74	3.28	3.46	3.64	3.94	0.44

【 後 期 】

- 授業科目の概要 地域創生学部専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 1,090
- 回答率 19.6%

【 総 評 】

前期に引き続き、原則対面で授業が実施された。学生アンケート調査の回答率は 19.6%であり、昨年度後期の回答率 20.7%と同程度に低い。前期は今年度 34.2%、昨年度 35.0%であり、後期の回答率は前期よりも低い。前期の総括でも記したが、学生アンケートはオンラインでの回答方式であるため、指示した際に回答しなかった学生は、その後も回答せず、回答率が上昇しない一因になっていると考えられる。今後、アンケートの実施方法を検討し、十分な回答率をいかに確保するかが重要な課題であり、アンケート結果に各教員がコメントしていることの周知も必要であると考えられる。

以下、アンケートの設問毎の詳細について考察する。まず、学生の自己評価に関わる項目として、設問 1「わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。」は、肯定的回答（強くそう思う・そう思う）の割合が前年度 98.3%と同水準の 99.2%であり、各科目において学生が真面目に取り組んだと考えられた。設問 2「わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修時間」は、4 時間以上および 2 時間以上と回答した割合の合計は 53.7%（昨年度 53.8%）、授業時間外に全く学修をしていないと回答した割合は 4.5%であった（R5 年度：7.6%、R4 年度：6.1%）。授業学修時間が多い学生は昨年度と同程度であり、学修しない学生は減少した。設問 3「この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている」の肯定的回答（強くそう思う・そう思う）の割合は 92.6%であった。引き続き、授業時のみでなく、授業時間外にも積極的に課題に取り組めるよう支援をしていきたい。

次に、授業評価に関わる設問 4～10 については、設問 4「この授業では能動的学修機会がある。」の肯定的回答（強くそう思う・そう思う）の割合は 88.9%であった。設問 8～10 の肯定的回答（強くそう思う・そう思う）の割合は、設問 8「この授業の内容に関してさらに学びたい。」で 94.6%、設問 9「この授業での学習活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。」で 97.2%、設問 10「総合的に判断して、この授業に満足している。」で 97.1%であり、いずれも高水準であった。これらの結果から、学部教員がきめ細やかに学修指導を実施していることが、高い満足度に繋がっていると考えられた。

■学部・学科	地域創生学部	■受講登録者数	5,567
■科目名	地域創生学部専門科目	■回答者数	1,090
■担当者名		■回答率	19.6%

■設問別評価集計

アンケート設問内容		強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
		評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1	わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	598	483	9	0	3.54
		54.9%	44.3%	0.8%	0.0%	
Q2	わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	205	380	456	49	2.68
		18.8%	34.9%	41.8%	4.5%	
Q3	この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	585	424	72	9	3.45
		53.7%	38.9%	6.6%	0.8%	
Q4	この授業では能動的学修機会がある。	566	403	102	19	3.39
		51.9%	37.0%	9.4%	1.7%	
Q5	この授業の課題の内容・量は適切である。	499	537	43	10	3.40
		45.8%	49.3%	3.9%	0.9%	
Q6	この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	535	528	23	3	3.46
		49.1%	48.5%	2.1%	0.3%	
Q7	この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	561	497	28	3	3.48
		51.5%	45.6%	2.6%	0.3%	
Q8	この授業の内容に関してさらに学びたい。	473	558	51	7	3.37
		43.4%	51.2%	4.7%	0.6%	
Q9	この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	518	540	27	4	3.44
		47.6%	49.6%	2.5%	0.4%	
Q10	総合的に判断して、この授業に満足している。	526	531	27	5	3.45
		48.3%	48.8%	2.5%	0.5%	

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
3.15	3.39	3.54	3.81	3.91	0.33
2.14	2.32	2.72	3.24	3.56	0.50
2.82	3.20	3.50	3.83	3.85	0.40
2.75	3.00	3.54	3.85	3.85	0.42
2.94	3.32	3.50	3.72	3.94	0.38
3.01	3.25	3.50	3.75	3.90	0.36
2.98	3.33	3.50	3.77	3.93	0.39
2.90	3.20	3.43	3.68	3.92	0.38
3.01	3.30	3.50	3.74	3.94	0.37
2.96	3.29	3.50	3.75	3.91	0.37

生物資源科学部

【 前 期 】

- 授業科目の概要 生物資源科学部専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 653
- 回答率 19.8%

【 総 評 】

総合的な満足度について9割を超えてはいるものの、すべての回答項目について、例年通り「強くそう思う」よりも「そう思う」が多い。また、授業外学修時間が少ないことが問題である。生命環境学科では、生物学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰが初年度の前期に必修科目として行われるが、受験科目とも関係し、非常に学生のレベルにばらつきが大きい。学習についていけない学生に対しては、様々な工夫が考えられるが、生物学Ⅰでみられるように、質問しやすい形で質問を受け付けるなどのきめ細かい指導が必要なことが挙げられた。なお、物理学Ⅱにおいて、講義内容を重点化している。18歳人口減に大きく起因する入学生のレベル低下にどう対応していくかは、カリキュラム全体での総合的な対策を練っていく必要がある。

相変わらず、ネット回答になってから回答率が低く、他学部と比較しても低い。そのため、値に対して統計的に傾向が客観的にコメントしにくい。試験実施終了後にアンケートを実施した科目は回答率が高かったので、同様の対策を行うなどの工夫が必要である。

■学部・学科	生物資源科学部	■受講登録者数	3,292
■科目名	生物資源科学部専門科目	■回答者数	653
■担当者名		■回答率	19.8%

■設問別評価集計

アンケート設問内容		強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
		評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1	わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	254 39.0%	373 57.2%	24 3.7%	1 0.2%	3.35
Q2	わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	113 17.3%	262 40.1%	251 38.4%	27 4.1%	2.71
Q3	この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	237 36.3%	355 54.4%	53 8.1%	8 1.2%	3.26
Q4	この授業では能動的学修機会がある。	188 28.8%	294 45.0%	139 21.3%	32 4.9%	2.98
Q5	この授業の課題の内容・量は適切である。	227 34.8%	372 57.0%	38 5.8%	16 2.5%	3.24
Q6	この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	211 32.3%	389 59.6%	47 7.2%	6 0.9%	3.23
Q7	この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	228 34.9%	383 58.7%	40 6.1%	2 0.3%	3.28
Q8	この授業の内容に関してさらに学びたい。	198 30.3%	350 53.6%	89 13.6%	16 2.5%	3.12
Q9	この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	196 30.0%	404 61.9%	46 7.0%	7 1.1%	3.21
Q10	総合的に判断して、この授業に満足している。	207 31.7%	394 60.3%	45 6.9%	7 1.1%	3.23

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
2.88	3.25	3.44	3.67	3.94	0.41
1.78	2.52	2.69	3.00	3.65	0.67
2.59	3.16	3.33	3.65	3.94	0.48
2.33	2.78	3.25	3.71	3.88	0.52
2.53	3.15	3.33	3.67	3.96	0.50
2.67	3.21	3.33	3.67	3.96	0.48
2.75	3.20	3.33	3.57	3.96	0.47
2.47	3.10	3.33	3.54	3.94	0.52
2.59	3.08	3.33	3.56	3.92	0.47
2.71	3.17	3.33	3.63	3.96	0.45

【 後 期 】

- 授業科目の概要 生物資源科学部専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 412
- 回答率 12.2%

【 総 評 】

回答率が 12.2%と非常に低く、回答率向上については各学科・コース毎に組織的な対応が望まれる。また、各科目でのアンケート回答率を向上させるための教員側の工夫と学生側の意識向上が望まれる。集計結果の読み取りに限りがある中で、Q1 から Q10 の各問いに対して概ね評価 3 以上を得ており、回答した学生がしっかりと講義に取り組んでいる様子が伺えた。また、実習・演習系の科目については 90%以上とほとんどの受講学生から回答が得られていた。総じて授業の改善に資するアンケート内容や、寄せられたコメントを考慮して更なる改善に結び付けようとする各教員の姿勢が見られ、今後の改善が期待される。

■学部・学科	生物資源科学部	■受講登録者数	3,382
■科目名	生物資源科学部専門科目	■回答者数	412
■担当者名		■回答率	12.2%

■設問別評価集計

アンケート設問内容		強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
		評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1	わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	162 39.3%	229 55.6%	16 3.9%	5 1.2%	3.33
Q2	わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	55 13.3%	160 38.8%	174 42.2%	23 5.6%	2.60
Q3	この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	115 27.9%	251 60.9%	38 9.2%	8 1.9%	3.15
Q4	この授業では能動的学修機会がある。	144 35.0%	183 44.4%	70 17.0%	15 3.6%	3.11
Q5	この授業の課題の内容・量は適切である。	124 30.1%	251 60.9%	29 7.0%	8 1.9%	3.19
Q6	この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	144 35.0%	243 59.0%	16 3.9%	9 2.2%	3.27
Q7	この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	140 34.0%	251 60.9%	14 3.4%	7 1.7%	3.27
Q8	この授業の内容に関してさらに学びたい。	130 31.6%	241 58.5%	32 7.8%	9 2.2%	3.19
Q9	この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	117 28.4%	261 63.3%	26 6.3%	8 1.9%	3.18
Q10	総合的に判断して、この授業に満足している。	131 31.8%	255 61.9%	17 4.1%	9 2.2%	3.23

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
2.70	3.00	3.23	3.50	3.75	0.39
1.91	2.50	2.67	3.00	3.49	0.56
2.57	3.00	3.11	3.33	3.72	0.40
2.34	2.67	3.00	3.50	3.66	0.47
2.57	3.00	3.00	3.50	3.72	0.40
2.60	3.00	3.21	3.50	3.75	0.42
2.68	3.00	3.25	3.44	3.77	0.42
2.36	3.00	3.04	3.33	3.70	0.45
2.49	3.00	3.11	3.43	3.74	0.42
2.57	3.00	3.11	3.43	3.74	0.39

【 前 期 】

- 授業科目の概要 保健福祉学部専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 2,671
- 回答率 37.4%

【 総 評 】

学生のアンケート回答率は37.4%であった。昨年度（令和5年度）前期の32.5%、或いは昨年度（令和5年度）後期の25.9%よりわずかに上昇した。前期の回答率は後期に比べて高い傾向がみられている。回答期間を延長する、授業の終わりに回答時間を確保するといった工夫にも関わらず、学生の4割弱しか回答していなかった。ミニツッペーパー等を利用して、授業内に継続的に学生の意見を聴く等の工夫をしている教員もあり、学期末にまとめてアンケートをとるといった方法には限界があるのかもしれない。

学生の回答の平均値を昨年度（令和5年度）後期と比較すると、ほぼ全ての項目でわずかにポイントの上昇がみられた。ただし、昨年度（令和5年度）前期の平均値と比較すると、Q7「教材の適切さ」以外は全ての項目でわずかにポイントの低下がみられた。

項目ごとにみると、Q1「真剣な取り組み」では99%の学生、Q6「目標とする力」では98.6%の学生、Q8「さらに学びたい」では97.4%の学生、Q10「全体的な満足」では98.5%の学生が、「強くそう思う」又は「そう思う」と回答していた。回答した学生の9割以上が、授業に真剣に取り組む、必要な力を身に付け、さらに学びたいと感じ、自らの学びに満足していた。

一方で、Q2「授業外学修」では44.3%の学生、Q4「能動的な学び」では15.5%の学生が「全くそう思わない」、「そう思わない」と回答しており、授業での学びが授業外の学修や能動的な学びに繋がらなかったと感じた学生がいた。教員のコメントの中に「時間外学修を促すために、オンデマンド講義資料等を事前掲載し、事前学習等を促した」といった意見がみられており、学生の能動的な学びを促進し、授業での学修が授業外の学修へと発展するようなさらなる工夫が必要である。

■学部・学科	保健福祉学部	■受講登録者数	7,138
■科目名	保健福祉学部専門科目	■回答者数	2,671
■担当者名		■回答率	37.4%

■設問別評価集計

アンケート設問内容		強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
		評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1	わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	1,458 51.5%	1,344 47.5%	27 1.0%	1 0.0%	3.50
Q2	わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	520 18.4%	1,054 37.2%	1,099 38.8%	157 5.5%	2.68
Q3	この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	1,316 46.5%	1,343 47.5%	143 5.1%	28 1.0%	3.39
Q4	この授業では能動的学修機会がある。	1,268 44.8%	1,125 39.8%	350 12.4%	87 3.1%	3.26
Q5	この授業の課題の内容・量は適切である。	1,238 43.7%	1,515 53.5%	60 2.1%	17 0.6%	3.40
Q6	この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	1,344 47.5%	1,447 51.1%	37 1.3%	2 0.1%	3.46
Q7	この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	1,370 48.4%	1,412 49.9%	44 1.6%	4 0.1%	3.47
Q8	この授業の内容に関してさらに学びたい。	1,224 43.3%	1,530 54.1%	73 2.6%	3 0.1%	3.40
Q9	この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	1,224 43.3%	1,541 54.5%	59 2.1%	6 0.2%	3.41
Q10	総合的に判断して、この授業に満足している。	1,302 46.0%	1,487 52.5%	33 1.2%	8 0.3%	3.44

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
3.00	3.33	3.48	3.70	3.92	0.38
1.85	2.43	2.68	3.00	3.64	0.60
2.58	3.11	3.35	3.57	3.84	0.44
2.54	3.00	3.38	3.67	3.86	0.47
2.67	3.17	3.33	3.51	3.83	0.42
2.84	3.21	3.41	3.59	3.83	0.39
2.81	3.24	3.41	3.59	3.84	0.40
2.80	3.16	3.36	3.57	3.83	0.39
2.74	3.13	3.35	3.54	3.82	0.41
2.83	3.23	3.43	3.60	3.85	0.41

【 後 期 】

- 授業科目の概要 保健福祉学部専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 1,619
- 回答率 24.3%

【 総 評 】

学生のアンケート回答率は24.3%であり、今年度（令和6年度）前期の37.4%よりも13.1%低下した。さらに、昨年度（令和5年度）後期の25.9%に比べて、1.6%低下した。例年、回答率は2～3割に留まっており、前期よりも後期の回答率が低い傾向が続いている。授業アンケートの目的がより多くの学生から意見を聴き、授業改善に繋げることであるならば、回答率を上げる工夫やアンケート方法の見直し等を検討する必要がある。

アンケートに回答した学生の99%が授業に集中し、真剣に取り組んだと感じており、98%の学生が総合的に判断し、この授業に満足したと回答していた。しかし、回答率が24.3%だったことから、これらの結果は真剣に授業に取り組み、満足できたと感じた学生の意見であって、そうではない学生の意見は反映されていない可能性がある。

評価結果は、今年度（令和6年度）前期および昨年度（令和5年度）後期とほぼ同様であった。Q1、Q3、Q5～Q10の項目では、97%以上の学生がそう思う又は強くそう思うと回答していた。一方で、Q2「授業外学修」では55.6%、Q4「能動的学修」では81.9%の学生がそう思う又は強くそう思うと回答するに留まっていた。

教員のコメントには、積極的にグループワークを取り入れたり、自己学修のための課題を課したり、対面とオンデマンド講義を組み合わせるなど、学生の能動的な学修を促すための様々な工夫が記載されていた。その結果、学生の多くが熱心に授業に取り組み、目標とする力が身に付き、さらに学びたくなったと感じていた。しかし、これらの学生の中には、授業での学びを能動的学修とは捉えなかったり、学外学修には結び付かなかった感じた学生がいたことが推察された。

■学部・学科	保健福祉学部	■受講登録者数	6,658
■科目名	保健福祉学部専門科目	■回答者数	1,619
■担当者名		■回答率	24.3%

■設問別評価集計

アンケート設問内容		強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
		評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1	わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	855 52.8%	753 46.5%	9 0.6%	2 0.1%	3.52
Q2	わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	311 19.2%	589 36.4%	648 40.0%	71 4.4%	2.70
Q3	この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	754 46.6%	780 48.2%	73 4.5%	12 0.7%	3.41
Q4	この授業では能動的学修機会がある。	687 42.4%	639 39.5%	245 15.1%	48 3.0%	3.21
Q5	この授業の課題の内容・量は適切である。	749 46.3%	834 51.5%	33 2.0%	3 0.2%	3.44
Q6	この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	786 48.5%	814 50.3%	17 1.1%	2 0.1%	3.47
Q7	この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	780 48.2%	804 49.7%	34 2.1%	1 0.1%	3.46
Q8	この授業の内容に関してさらに学びたい。	740 45.7%	846 52.3%	30 1.9%	3 0.2%	3.43
Q9	この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	742 45.8%	842 52.0%	33 2.0%	2 0.1%	3.44
Q10	総合的に判断して、この授業に満足している。	775 47.9%	819 50.6%	22 1.4%	3 0.2%	3.46

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
3.06	3.40	3.56	3.70	3.90	0.37
2.02	2.39	2.73	3.00	3.55	0.54
2.70	3.20	3.43	3.60	3.87	0.45
2.74	3.00	3.50	3.67	3.84	0.43
2.87	3.30	3.43	3.57	3.84	0.39
2.97	3.33	3.47	3.61	3.85	0.38
2.88	3.32	3.44	3.58	3.84	0.40
2.86	3.29	3.44	3.60	3.84	0.40
2.88	3.30	3.48	3.60	3.85	0.40
2.91	3.29	3.50	3.62	3.86	0.39

全学共通教育科目

【 前 期 】

- 授業科目の概要 全学共通教育科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 3,619
- 回答率 44.0%

【 総 評 】

ここ数年、本調査の回答率が問題となっているが、全学共通教育科目全体を俯瞰すると、令和4年度前期：37.3%、同後期：21.4%、令和5年度前期：39.0%、同後期27.7%と推移している。前期の回答率が高くなる傾向はあるものの、今期の44.0%という数値は、回答率向上への取り組みが一定の成果を上げた結果と見ることができるであろう。ただし、100%の回答を得た科目が複数ある一方で10%台にとどまった科目も散見されており、回答率の向上については引き続き策を講じる必要がある。

以下、各科目領域の担当主任から寄せられた総括コメントを原文通り掲げることとする。各科目の担当者が「学びのあり方」に関する問題意識を共有しようと努め、担当主任においてはそれらを全体に伝えるべく簡潔に取りまとめた、その労を多としたい。

なお、前期中に該当科目が開講されなかった等の理由により総括コメントが寄せられなかった領域や、その旨の報告があった領域については、紙幅の都合上、個別に明記することを避けた。

【外国語（英語）】

新型コロナウイルス感染症の影響は未だ完全には消えていないものの、コロナ禍前に行われていたような対面授業への回帰は昨年度と比較しさらに進展した。昨年度前期の総評では「教材・教科書の選定が受講者の興味関心とマッチした場合に授業の効果が高まり評価も好ましくなる傾向が窺えた」と述べたが、それに加え、今年度前期の各教員のコメントからは、能動的学修機会をいかに充実させるかということが重要性を増しているように感じられた。能動的学修機会のあり方について、各教員が工夫していることが窺えた。欲を言えば、この授業評価アンケートにおいて、各教員がどのような手法で授業を進めているかについての見える化が進むことを期待したい。そうすればコメントの意図がもっとよくわかるようになってよいのではないか。

回答率がほぼ100%の科目もあれば、そうでない科目もあった。全体を見れば、オンライン化が始まった当初よりも上がってはきているが、コロナ禍前に紙ベースで行っていたころと同様に授業時間の中に回答する時間を設けるなど、回答率を上げるための方策をとっていきたい。最後に、今回も全教員からコメントを得られたわけではなかった。改善につなげていくため、より多くの教員からコメントを得ていくことが望まれる。

【学際知（人文）】

1 科目から 3 報告があった。結果、大過なしと言える。というより、「学生アンケート」としては申し分ない評価であろう。「発想の幅が広がった」「自分自身の考えが広がったように感じる」「自分のためになる授業」等のコメントが寄せられ、教養科目の役割を果たしている印象である。

問題は別にある。科目担当者は一人で 3 キャンパス約 280 名の履修者に対応している。本学は各キャンパス 100km 離れており、多くの科目が「対面」に戻るなか、一部の共通教育科目は「オンライン」実施を余儀なくされているのが実情である。再編を経て教育環境は改善されたのかどうか、そろそろ本腰を入れ検証すべき時であろう。例えば、このたび報告のあった科目に関しては 5 年前、一人教員補充がおこなわれず、一人二役、三役を担っている状況にある。補充凍結の際は、代わりに「新遠隔システムを導入するから」「15 回の全回、3 キャンパスに TA を配置するから」といった援護策も提示されていたものの、いずれも実質的に機能せず今に至っている。とすれば、まずは、新しく導入された「新遠隔システム」の過去 5 年間にわたる費用対効果の検証から始めるのが筋であろう。

(i) 絶対に必要なもの、失ってはならないもの、(ii) あってもいいがなくてもいいもの、(iii) 端的になくてもいいもの、(iv) 絶対に不要なもの、あってもならないもの、こうした 4 つを上手に仕分けられる能力を、鷺田清一氏は「教養」と呼ぶ。本学は、知らぬ間に(ii)(iii)(iv)であふれていないだろうか。

最後に一点付記しておく。元々再編前に広島キャンパスで専門科目として用意されていたドイツ語 III, IV やフランス語 I, II, III, IV が、今年度静かに閉講した。それらを学ぶ学生なら卒論を書かせても有望だろうに、と、個人的には身を切られるような痛みを感じないではない。高い言語能力は人文系をはじめ諸学問の要と言えるからである。閉講を決めた方（々）は、何を念頭に置きそう判断されたのであろうか。ユニヴァーシティは語源的にも、「英語だけ学べばよい」「専門科目だけ学べばよい」といった所ではなく、各学生が、自分なりに、ユニヴァーシティに結集された多彩な知を、自分のなかで有機的に編み直し、統合していくための場であろう。近年の本学の改革が総じて「改善」につながっていることを祈りたい。

【学際知（社会）】

3 キャンパス合同の授業においては、履修学生同士のディスカッションをどのように実施するかが課題となる。そのため、3 科目のうち 2 科目はハイフレックス授業を行っていた。ハイフレックス授業の課題として、対面で実施するキャンパスから他キャンパスにオンラインで授業を配信する際に、映像や音声が適正に送信できないといったトラブルや、接続に時間を要し、授業開始時間が少し遅れるといった課題があった。トラブルを防止するため、事前準備をしっかりと行うなどの対策もとられていた。このように教員が 3 キャンパスを移動して授業を実施するという工夫をしても、グループディスカッションに参加しない学生もあり、その点が課題である。また、オンラインのみでの授業において、グループディスカッションを望む学生の声もあった。その場

合に、どのような方法やルールで実施するかやディスカッションをどのように評価するかなどが課題である。

また、履修者の反応を知るために、2科目で、毎週小テストを実施し、授業内で簡単なフィードバックを行っていた。小テストを実施することで、その科目のポイントが学生にも伝わるため、この方法は重要であると考える。

【地域課題】

「地域情報発信論」では、担当教員のコメントとして、以下の点が挙げられている。

以下のコメントから、昨年度のアンケート結果を踏まえて対応できている点等が見受けられた。

- ・昨年度のアンケート結果を踏まえて、オンラインの日時を最終日から3日目に変更した。(ただし、台風の影響もあり、結果的に両日ともオンラインとなった。)
- ・毎日の授業の終わりに振り返りシート(最終日はグループ振り返りシートも提出)の提出や、ルーブリック評価も初日と最終日にさせているとのコメントがあり、肯定的な回答が100%であり、ルーブリックより、学生の成長が見て取れた。
- ・トラブルがあったため、トラブルがないあるいはトラブルがあっても問題なく実施できる授業設計が今後の課題

一方で、アンケート回答率が、平均で20%以下であり、適切に評価できているのか否か疑問に思われる。アンケートの回収率については、今後どのようにして回収率を上げることができるかを検討することが重要であるように思われる。

【キャリア開発】

ライフデザインは、今年度から学生が3キャンパスの教室で受講し、教室間をオンラインでつなぐハイフレックス方式に変更している。グループワークの際には、それぞれの教室で対面で実施する。毎回小テストを実施し、その結果を踏まえた解説を行うなど、学生の理解度向上のためにきめ細かな対応をとっている。3キャンパスで550名の受講者がいるため、教員のいない教室には十分な人数のTAを配置することが望まれる。

ボランティアは、実際のボランティア活動があるため、一部、そのことに負担感のある学生もいるようである。今後、ボランティア活動先や活動の状況把握のために、学生にアンケートを実施することを検討している。

キャリアビジョンについては、三原キャンパスは対面授業主体で1回のみオンライン授業を行っている。対面授業のグループワークに関しては、意見交換によって理解が深まった述べている一方で瞑想の実践を含む1回のオンライン授業は、集中しやすかったとコメントしている。3キャンパスの学生を対象とした集中講義においても、受講者は集中しやすいことをメリットとしてあげている。このことから、今後、対面とオンラインを組み合わせた授業について検討することを提案したい。

【入門演習】

現在 6 時限目に行われているものがあり、この時間帯を再考して欲しい旨の学生からのコメントがあったとのことである。教員側としても 1～5 時限の中で行いたい、現状の「カリキュラム」（時間割編成の意味と思われる）に余裕がなく、こうせざるを得ない。ただ、（通常通り）1 時限目から勤務すると超過勤務となるがカリキュラム（時間割）編成者はこの点についてどう考えているのか、というコメントもあった（詳細は不明であるが、研究室運営の関係で勤務時間帯の変更で対応するのも難しいようである）。また、6 時限目開講であることに加え、単位は卒業要件外の扱いであるため、学生側の参加意欲そのものが低く、もし学生の学力を保つ目的で入門演習を行うのであれば（学部によるが）必須科目にすることも検討すべきではという意見もあった。この他、3 キャンパスを跨いで行う都合上、オンラインとならざるを得ないが、そのことが学生アンケートでの「この授業では能動的学修機会がある」に対する回答が否定的な傾向となっているという指摘もあった。

■学部・学科	全学共通教育科目	■受講登録者数	8,224
■科目名	全学共通教育科目全体	■回答者数	3,619
■担当者名		■回答率	44.0%

■設問別評価集計

アンケート設問内容		強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
		評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1	わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	1,970 54.2%	1,600 44.0%	59 1.6%	7 0.2%	3.52
Q2	わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	524 14.4%	1,180 32.5%	1,629 44.8%	303 8.3%	2.53
Q3	この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	1,734 47.7%	1,532 42.1%	300 8.3%	70 1.9%	3.36
Q4	この授業では能動的学修機会がある。	1,857 51.1%	1,332 36.6%	355 9.8%	92 2.5%	3.36
Q5	この授業の課題の内容・量は適切である。	1,699 46.7%	1,754 48.3%	149 4.1%	33 0.9%	3.41
Q6	この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	1,690 46.5%	1,821 50.1%	110 3.0%	14 0.4%	3.43
Q7	この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	1,702 46.8%	1,786 49.1%	119 3.3%	28 0.8%	3.42
Q8	この授業の内容に関してさらに学びたい。	1,272 35.0%	1,996 54.9%	316 8.7%	51 1.4%	3.23
Q9	この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	1,560 42.9%	1,915 52.7%	129 3.5%	31 0.9%	3.38
Q10	総合的に判断して、この授業に満足している。	1,709 47.0%	1,778 48.9%	124 3.4%	24 0.7%	3.42

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
2.55	3.34	3.48	3.65	3.92	0.47
1.43	2.26	2.51	2.79	3.74	0.69
2.18	3.12	3.41	3.53	3.91	0.55
2.02	2.99	3.40	3.66	3.86	0.58
2.26	3.23	3.40	3.51	3.92	0.52
2.41	3.27	3.39	3.53	3.91	0.49
2.24	3.25	3.40	3.51	3.92	0.52
2.14	3.06	3.24	3.41	3.91	0.54
2.29	3.22	3.40	3.50	3.91	0.50
2.38	3.24	3.42	3.56	3.95	0.50

全学共通教育科目

【後 期】

- 授業科目の概要 全学共通教育科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 2,219
- 回答率 31.8%

【総 評】

本調査の回答率の低さは依然として大きな課題となっている。全学共通教育科目全体について見ると、令和4年度前期：37.3%、同後期：21.4%、令和5年度前期：39.0%、同後期27.7%と推移し、今年度前期においては44.0%となったことを、回答率向上への取り組みが一定の成果を上げた結果と評価したが、今期は別掲の通り31.8%になってしまった。

ただ、全般に後期の回答率は低い傾向がある。見方を変えて21.4%→27.7%→31.8%という推移に注目すれば、回答率向上への取り組みが一定の成果という評価は当たっていないわけではないのかも知れない。しかし、いずれにせよ、回答率の向上については引き続き策を講じる必要があることに間違いはない。

以下、各科目領域の担当主任から寄せられた総括コメントを原文通り掲げることとする。各科目の担当者が「学びのあり方」に関する問題意識を共有しようと努め、担当主任においてはそれらを全体に伝えるべく簡潔に取りまとめている。教員からのコメントが少ないとの総括には、謙虚に耳を傾けたい。

なお、後期中に該当科目が開講されなかった等の理由により総括コメントが寄せられなかった領域や、その旨の報告があった領域については、紙幅の都合上、個別に明記することを避けた。

【外国語（英語）】

後期に入り、授業を行っていてふと気がつく、コロナ禍に自分がどのように授業を行い、日々を過ごしていたか忘れかけている自分に気がついた。コロナ禍前に行われていたような対面授業への回帰が実現されたのかも知れないと感じる。各教員のコメントから、Teamsなどのツールの活用も、会話やグループワークなどの能動的学修機会の充実もさらに進展したことが窺えた。どのような手法で授業を進めているか、どのようにして受講者の反応を把握しようとしているか、詳細に述べられたコメントを読むと、自分も授業をさらに充実させなければという気持ちがわいてくる。今後各担当教員がさらに取り組みを充実させていくことが期待される。アンケート回答率も徐々に高くなってきている。一方で、コメントしなかった教員もいたようであるが、案内がメールで来ることから、ほかのメールに埋もれてしまった可能性もある。呼びかけを強化していきたい。

【外国語（英語以外の外国語）】

教員コメントの入力がある科目が限られていた。また、学生の回答率が高いとは言えない科目もあり、アンケート調査を行う意義という観点から、今後の改善が求められる。教員コメントの中には、アンケート調査のうち「さらに学びたい」という項目に「強く思う」と回答する学生に対して、対応する方法が大学のカリキュラムとしては提供されていないかという意見もあった。また、演習で行った内容が実践に結び付いていないことによって、改善の必要性を感じているという意見もあった。

【学際知（人文）】

人は何度 顔をそむけて 見ぬふりができるのか

その答えは 友よ 風のなかに

その答えは風のなかに （ボブ・ディラン）

今回 1 科目から 3 報告があり、例年通りの結果（概ね好評）が得られた。科目担当者は一人で 3 キャンパス約 250 名の履修者に向き合い、中間アンケート等のきめ細かな対応によって、安定した評価を受けていることが窺える。

そして例年通り、総評としては、「教育改善」よりも、やはり「設定／設計」に問題なしとしない。科目担当者は、再編により次の 4 つのハンディを負って出発した。1) 「新遠隔システム」が収容人数的に使い物にならないこと、2) TA の 3 キャンパス全回配置が見込めないこと、3) 「旧遠隔システム」の終了、4) 教員補充の凍結、である。はたして 5 年前の再編は大学の魅力増に寄与したのだろうか。また本当に「学際知（人文系）」は、3 キャンパス 1 教員体制（目下「心理学」のみ例外）でよいのだろうか。再編について、実質を伴った検証が必要だろう（大学設置基準第 24 条参照）。

結局、現場を無視したトップダウン型の教育改革は、国内外問わず、大局的に見ればどこも失敗しているのではないかと。いわゆる「ボローニャ・プロセス」「エラスムス」等、欧州高等教育動向も、筆者の知る海外教員は皆「失敗」と口を揃える（余計なペーパーワークのみ増加したというのが主因）。ヌッチョ・オルディネ氏は、今日の大学が陥りがちな状況を次のように描き出す。「ひとたび「企業としての大学」という視点を採用するなり、校長や理事長が達成すべき最終的目標は、市場に「人材」として送り出すべき卒業生を量産することになる。……現場の教員もまた、大学という企業の経営に奉仕する平凡な会社員と化しつつある。書類を作成し、計算し、（目的のはっきりしない）統計調査のために報告書を執筆し、先細りする一方の収支を合わせ、アンケートに答え、……大学教員の一日は暮れてゆく。役人が押しつけてくる疲れを知らないメトロノームのリズムに従ってあらゆる種類の会議が招集され、果てしない議論を交わし、ふと気づけば学期末を迎えている」。（『無用の効用』『企業としての大学と、会社員としての教員』より）。

では現場からのボトムアップ型でどうすべきか。日本学術会議若手アカデミー編見解「2040 年の科学・学術と社会を見据えて：いま取り組むべき 10 の課題」（2023）が必読である（esp. p. 17）。

【学際知（社会）】

「家族社会学」「法学」についてコメントする。どちらの科目も3キャンパス合同の授業であり、授業の実施形態に関する苦労や工夫が共通課題として見出される。家族社会学ではリアルタイムのオンライン授業を実施しており、オンライン上での学生どうしのグループ・ディスカッションを活発化することが課題となっている。法学では教員がキャンパスを移動して対面授業と配信授業を組み合わせるハイブリッド授業を行っている。オンラインのみの授業だと学生によっては授業に集中できない、積極的に参加しなくなる等の問題が生じることから、この方式を採用している。遠隔配信のトラブルについても事前準備をしっかりと行うことで減らすことができている。

また、法学では、学生の理解度を確認するために小テストを実施して次の回で解説している。家族社会学では、毎回のリアクションペーパーに授業の感想と学生からの質問を書いてもらうようにし、質問については授業の中で回答している。

以上のように、オンライン授業という点での限界もあるが、それぞれの教員が工夫して授業を行っていることがわかる。家族社会学では、学生による書評レポートの発表会を取り入れており、他の学生の発表を聞けることが良かったとする感想も寄せられていた。このように、3キャンパス合同の授業という点を活かして、オンラインで学生同士がもっと意見交換できる機会を増やしていくことが、学生の意欲を喚起し、視野を広げることにもつながっていくのではないかと考える。

【論理思考表現】

論理思考科目のクリティカル・シンキングは、全体的として総合的な満足度が高く、授業内容や進め方など受講生に好意的に受け止められているといえる。議論の進め方や時間配分など前年度のからの改善も適切に行われている。ただし、アンケートの回答率の低さが問題点である。

【地域課題】

「国際社会の理解」では、担当教員のコメントとして、以下の点が挙げられている。

以下のコメントから、昨年度のアンケート結果を踏まえて対応できている点等が見受けられた。

- ・パワーポイントの提示時間の延長などを行い、学生がノートをとれるようにした。
- ・毎回学生から感想を募り、質疑に回答するようにした。
- ・授業運営についてもリクエストがあれば、さらにパワーポイントを見せるようにした。

一方で、アンケート回答率が、平均で10%程度であり、適切に評価できているのか否か疑問に思われる。アンケートの回収率については、今後どのようにして回収率を上げることができるかを検討することが重要であるように思われる。

【ダイバーシティ】

各科目において、学生から寄せられた意見や提言を踏まえ、授業の内容や方法について適切な改善が検討され実施に移されている。学生からの回答と教員からのコメントを更に多く集めることが課題である。

■学部・学科	全学共通教育科目	■受講登録者数	6,980
■科目名	全学共通教育科目全体	■回答者数	2,219
■担当者名		■回答率	31.8%

■設問別評価集計

アンケート設問内容		強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
		評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1	わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	1,174 52.9%	1,014 45.7%	26 1.2%	5 0.2%	3.51
Q2	わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	262 11.8%	644 29.0%	1,121 50.5%	192 8.7%	2.44
Q3	この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	1,011 45.6%	1,013 45.7%	163 7.3%	32 1.4%	3.35
Q4	この授業では能動的学修機会がある。	1,221 55.0%	786 35.4%	177 8.0%	35 1.6%	3.44
Q5	この授業の課題の内容・量は適切である。	1,057 47.6%	1,071 48.3%	73 3.3%	18 0.8%	3.43
Q6	この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	1,017 45.8%	1,131 51.0%	56 2.5%	15 0.7%	3.42
Q7	この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	1,051 47.4%	1,084 48.9%	69 3.1%	15 0.7%	3.43
Q8	この授業の内容に関してさらに学びたい。	888 40.0%	1,172 52.8%	134 6.0%	25 1.1%	3.32
Q9	この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	1,022 46.1%	1,120 50.5%	60 2.7%	17 0.8%	3.42
Q10	総合的に判断して、この授業に満足している。	1,071 48.3%	1,066 48.0%	62 2.8%	20 0.9%	3.44

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
2.76	3.28	3.50	3.60	3.90	0.42
1.56	2.19	2.41	2.69	3.49	0.61
2.40	3.19	3.39	3.59	3.88	0.50
2.36	3.05	3.47	3.67	3.92	0.54
2.50	3.24	3.42	3.54	3.90	0.48
2.55	3.20	3.41	3.52	3.89	0.46
2.49	3.25	3.43	3.54	3.93	0.49
2.32	3.19	3.33	3.50	3.94	0.51
2.53	3.22	3.40	3.57	3.93	0.49
2.49	3.25	3.42	3.59	3.93	0.48

教職課程

【 前 期 】

- 授業科目の概要 教職課程科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 57
- 回答率 15.1%

【 総 評 】

ここ数年続いている傾向であるが、回答率が低く、授業の振り返りの意味をなさない状況が続いているように感じられる。授業アンケートへの回答を促すように教員も指示してはいるが、その効果もあまり見られないようである。今のような形での授業アンケートを続けるのかどうかを検討すべき時期ではないかと思われる。教員の中には、同じような感想を抱いている者も多いのではないかと推察される。それは、自分も含めて担当教員コメントの記述の少なさにも反映されているのではないだろうか。とは言え、回答率の比較的多い科目では講義の在り方と学生の反応を関連させて今後の講義に対する指針を述べられている教員もあり、まったく意味がないわけではなく、違った形（高い回答率が期待できる形）での実施が望まれるであろう。

集計結果から見ると授業外学習の項目（Q2）を除いた項目において、高い評価となっていることがわかる。これも教職科目全体として、望ましい状況が実現できていることの表れなのか、高い評価をしている学生が優先的に回答している結果なのか、判断できない面はあるが、出てきた結果を見ると、早急に改善すべき点は見当たらないという結果ではないだろうか。

■学部・学科	教職課程科目	■受講登録者数	378
■科目名	教員免許関係科目	■回答者数	57
■担当者名		■回答率	15.1%

■設問別評価集計

アンケート設問内容		強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
		評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1	わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	37 64.9%	20 35.1%	0 0.0%	0 0.0%	3.65
Q2	わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	18 31.6%	18 31.6%	18 31.6%	3 5.3%	2.89
Q3	この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	27 47.4%	24 42.1%	6 10.5%	0 0.0%	3.37
Q4	この授業では能動的学修機会がある。	35 61.4%	16 28.1%	6 10.5%	0 0.0%	3.51
Q5	この授業の課題の内容・量は適切である。	31 54.4%	22 38.6%	2 3.5%	2 3.5%	3.44
Q6	この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	36 63.2%	20 35.1%	1 1.8%	0 0.0%	3.61
Q7	この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	33 57.9%	22 38.6%	2 3.5%	0 0.0%	3.54
Q8	この授業の内容に関してさらに学びたい。	30 52.6%	26 45.6%	1 1.8%	0 0.0%	3.51
Q9	この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	32 56.1%	25 43.9%	0 0.0%	0 0.0%	3.56
Q10	総合的に判断して、この授業に満足している。	36 63.2%	19 33.3%	2 3.5%	0 0.0%	3.60

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
3.50	3.50	3.86	4.00	3.88	0.18
2.44	2.38	3.00	3.23	3.50	0.37
3.13	3.00	3.66	4.00	3.75	0.25
3.38	3.38	3.92	4.00	3.88	0.21
3.00	3.29	3.58	4.00	3.94	0.39
3.44	3.50	3.88	4.00	3.94	0.22
3.31	3.42	3.71	4.00	3.88	0.26
3.25	3.21	3.71	4.00	3.75	0.21
3.44	3.48	3.75	4.00	3.94	0.24
3.31	3.50	3.77	4.00	3.94	0.27

教職課程

【 後 期 】

- 授業科目の概要 教職課程科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 43
- 回答率 10.2%

【 総 評 】

前年同期と比較して、回答率は 17.8%から 10.2%と下落し、依然として評価の信頼性に疑問を感じざるを得ない状況である。とは言え、今期の評価値を見てみると、多くの項目で評価値 3 を超えており、概ね高い評価を得ているように感じられる。また、例年評価値の低い Q2 の値がわずかながら前年対比で上昇し、改善の結果が見られた。この傾向が継続することが望まれる。

また、授業アンケート回答率の増加を意図して、各教員が講義内で授業アンケートの回答を促すなどの方策を考えられているが、教職課程においては、非常勤の先生方に担当していただいている科目も多く、また集中講義の形で実施されているものも多い。このような特性を考慮して、教学課とも連携し、授業アンケートの回答を促すよう非常勤講師の先生方への働きかけも考える必要があると思われる。

■学部・学科	教職課程科目	■受講登録者数	422
■科目名	教員免許関係科目	■回答者数	43
■担当者名		■回答率	10.2%

■設問別評価集計

アンケート設問内容		強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
		評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1	わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	25 58.1%	17 39.5%	1 2.3%	0 0.0%	3.56
Q2	わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	12 27.9%	13 30.2%	15 34.9%	3 7.0%	2.79
Q3	この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	17 39.5%	19 44.2%	7 16.3%	0 0.0%	3.23
Q4	この授業では能動的学修機会がある。	22 51.2%	15 34.9%	6 14.0%	0 0.0%	3.37
Q5	この授業の課題の内容・量は適切である。	20 46.5%	21 48.8%	1 2.3%	1 2.3%	3.40
Q6	この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	22 51.2%	19 44.2%	2 4.7%	0 0.0%	3.47
Q7	この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	22 51.2%	17 39.5%	3 7.0%	1 2.3%	3.40
Q8	この授業の内容に関してさらに学びたい。	22 51.2%	19 44.2%	2 4.7%	0 0.0%	3.47
Q9	この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	23 53.5%	20 46.5%	0 0.0%	0 0.0%	3.53
Q10	総合的に判断して、この授業に満足している。	24 55.8%	18 41.9%	0 0.0%	1 2.3%	3.51

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
3.53	3.50	4.00	4.00	4.00	0.21
2.65	2.50	3.00	4.00	3.59	0.40
3.00	3.00	3.33	4.00	3.76	0.33
3.35	3.00	4.00	4.00	3.71	0.15
3.12	3.00	3.50	4.00	3.71	0.28
3.29	3.33	3.50	4.00	3.82	0.26
3.06	3.25	3.50	4.00	3.65	0.27
3.29	3.33	3.57	4.00	3.82	0.24
3.35	3.38	3.50	4.00	3.82	0.23
3.29	3.33	3.67	4.00	3.88	0.28